

# 社会科学習指導案

日 時 平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時  
児 童 〇〇市立〇〇小学校 〇年〇組 〇名  
場 所 5年〇組教室  
授業者 文教太郎  
指導者 教諭 吾妻京子

## ●単元名について

単元名は、このように子どもたちにとらえさせたいことを端的に表現したものにしましょう。もっと、自分の主張を出して「海津市の人ってすごいなあ!」という単元名にすることも可能です。

## ●評価規準

評価規準は単元目標をさらに細分化し、具体的にしたものと考えと書きやすくなります。

## ●評価基準

評価規準とセットで出されたものに評価基準というものがあります。その二つを区別するために前者を「のりじゅん」、後者を「もとじゅん」と呼ぶ人もいます。

この指導案には「もとじゅん」は示していませんが、「のりじゅん」をさらに具体的に、実際に評価を行うための視点が「もとじゅん」だと考えてください。

## 1 単元名 「低い土地のくらしー岐阜県海津市ー」

## 2 単元の目標と評価

### (1) 目標

地形条件からみて特色のある地域の人々のくらしや産業について関心を持ち、人々が自然環境に合わせ、どのような工夫や努力をしてきたかを地図や統計などの資料をもとに調べ、国土の環境と人々のくらしとが結びついていることを理解する。また、海津市の人々のくらしについての学習を通して、自分たちも地域を大切にしようとする態度を育てる。

### (2) 評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断、表現	ウ 観察・資料活用	エ 知識・理解
低い土地について関心を持ち、そこでくらす人々の生活の工夫などについて意欲的に知ろうとしている。	海津市の人々が、自然環境に合わせて様々な工夫や努力をしながらくらしを築いてきたことを考え、ノートにまとめることができる。	地図や統計、写真などの資料を活用して、海津市の人々のくらしの様子を読み取り、わかりやすく発表したりノートにまとめることができる。	海津市の人々の現在の暮らしが、過去からの工夫や努力の上に成り立っていることを理解することができる。また、国土の環境と人々のくらしや産業が結びついていることを理解できる。

## 3. 単元について

本単元は、学習指導要領の内容「(1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環

境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを考えるようにする。」に基づいて設定したものである。「次のこと」とは、「ア世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土」、「イ国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」、「ウ公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ」、「国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止」の四つを指している。

ここでは、その中の「イ国土の地形や気候の概要、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活」を扱い、国土の環境が人々の生活や産業と深いつながりを持っていることを考えることができるようにする。

児童はこれまでに本単元の大単元である「わたしたちの国土」の中で、「国土の地形と特色」を学習してきた。したがって、山地や平地の様子、広がりなど国土の地形の特色については理解している。しかし、それぞれの特色を持つ地域で、実際に人々がどのようにくらしているのか、どのような違いがあるのかという国土と人々の生活との関わりについては、まだ学習していない。

本単元では、自然条件に特色のある地域として岐阜県海津市を取り上げ、地形と人々の暮らしとのかかわりについて児童の理解を深めたい。

海津市は、水害が起きやすい地域である。その要因として大きく次の二つを挙げることができる。一つは、木曾川・揖斐川・長良川の三つの大河川に挟まれていることである。今一つは、0メートル以下の平らな土地が広がっていることである。

海津市は昔から水害の多い地域で、人々の工夫と努力により水害を防いで来たことを理解できるようにする。また、豊かな水を生かし、農業や観光などを発展させて来たことも理解させたい。これらの学習を通して人々が地形に合わせ工夫や努力を重ねながらより良い暮らしを作り上げていったことを理解させるのである。

本学級は男子 18 名、女子 19 名の計 37 名の学級である。本学級の児童は、〇〇市の台地上に住んでいるため、水害を経験したことがない。だが、児童が魚釣りなどでよく遊びに行く市内の低地帯は明治以降も何度も利根川の氾濫に遭っている。よく見れば、昔から在る農家は盛り土の上に建てられているし、氾濫で死んだ人々の慰霊碑も建っている。したがって、この低地帯の様子を示

●「単元について」に書くこと  
実習校によって指導されることが違うかもしれません。でも、最低、次の四つは入れたいものです。

#### 1) 学習指導要領とのつながり

教員である以上、学習指導要領を無視することはできません。指導しようと思っている単元の学習内容として学習指導要領がどんなことを示しているかはきちんと把握しましょう。

#### 2) 教育内容と教材について

子どもたちに教えようとすること（教育内容）について、教師自身が何をどこまで理解しているかを書きます。

また、その教育内容のためになぜ或るモノ・コトを教材として選んだかについても書く必要があります。たとえば、封建時代の身分制について教えたいと思ったら、教師がどれだけそれをきちんと把握しているか（教育内容の理解）を簡潔に書くとともに、なぜ（たとえば教材として）日光の東照宮でなく、学区にある庄屋屋敷を選んだかについても書きます（教材選定の理由）。

#### 3) 児童の実態

元気だ、よく手があがるなど単元の指導内容と余り関係のないことを書いても意味がありません。これから学習しようとしていることについての「児童の実態」を書くものです。ですから、次の四つ

を書きましょう。

- ・これまでにどんなことを学んできたのか（既習事項）
- ・発達段階はどうか
- ・どんな生活経験をしているのか（学校で学んでいなくても知っていることもあるのです）
- ・だからどんな点に留意してどんな風に指導するのか等（指導観）

#### 4) 単元の系統

これを把握しておくことは、既習事項をつかむためにも、また教えすぎないためにも必要です。

#### ●単元の指導計画について

暗記社会科、講義型社会科授業にしないために、1単元1サイクル、あるいは1小単元1サイクルで、指導計画をつくるという手法がよくとられます。

1サイクルとは、次のようなものです(基本であってバリエーションもあります)。

事象提示（これから学習させようということに対する“？”を、いっぱい持たせる＝興味・関心の惹起）→課題把握→[予想＝課題として示されたことについて仮説を立てさせますが、いきなり次の調べに入る指導過程をとるものもあります；思考力をみることができます]→調べ（資料活用力を養うところであり、また評価するところになります）→まとめ（知識の定着を図ります；思考力や判断力、表現力を育成することも可能です）

写真資料や統計資料と海津市のそれとを対比させるなら、児童は海津市の人々が水害を防ぐためにどのような工夫・努力を積み重ねてきたか、それが海津市の景観の中にどう反映されているのかを推論することができるであろう。

本単元を、単に海津市の人々の水との戦いの学習にとどめず、人々が自然条件を利用して生活を向上させようとしている姿やその底にある願いまで学ばせたい。そこで、本単元の指導計画を以下のように立てた。

#### 4. 指導計画（4時間扱い）

次	時	主な学習活動	各時間の評価規準
1	1	○海津市で水害が多い理由を調べる ・水害が多い理由を予想する ・白地図の川の部分に色を塗り、名前を調べ、気付いたことを発表する。 ・白地図の低い土地の部分（0m以下）に色を塗り、気が付いたことを発表する。	ア 低い土地について関心を持ち、そこでくらす人々の生活について意欲的に知ろうとしている。 エ 水害が多い理由を理解している。
	2	○人々はどのようにして水害を防いで来たかを知る。 ・年代別水害発生件数のグラフを見せ、1901年以降水害が急激に減っていることに気付かせる。 ・自分が神様だったらどのように水害を防ぐかを予想させる。 ・教科書、資料集を使って水害を防いだ方法を調べ、ワークシートにまとめる。	ウ 地図や統計、写真などの資料を活用し、水害を防いだ方法を調べることができる。 エ 人々がどのようにして水害を防いで来たのかを理解している。

※「単元の指導計画」は、以下省略するが、この後、農業や観光産業での豊かな水の活用を学ぶように計画している。

## 5. 本時の学習（ 1 / 4 時間目）

### （1）本時の目標

- ・なぜ海津市は水害が多いのかを調べ、理解することができる。
- ・水害が多い地域で人々はどのように生活しているのか、人々のくらしに興味や関心を持つ

### （2）評価規準

- ・なぜ、海津市では水害が起きやすいのかが分かったか。（エ知識・理解）
- ・水害が多く住むのが大変そうなところで人々はどのようにくらししているのかと疑問や関心を持てたか。（ア興味・関心）

### （3）準備

- ・ワークシート
- ・海津市の白地図（板書用）
- ・洪水の写真
- ・色鉛筆

### （4）展開

過程 (時配)	教師の指導	児童の活動	☆指導上の留意点 ★ 評価
事象提示 (5分)	<p>○洪水や土砂崩れの写真を見せる。</p> <p>「みんな、これは何の写真か分かりますか？」</p> <p>○水害が起きやすい地域があることを伝える。</p> <p>「これは、私たちの〇〇市の△△町が、この100年の間にどれだけ水害に遭ったかを示すグラフ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風</li> <li>・洪水</li> <li>・大雨</li> <li>・水害ってこわいね</li> </ul>	<p>☆水害の怖さやすさまじさが伝わる写真(資料①)を見せる。</p>

## ●本時の展開について

1) シナリオを書くように書きましよう。つまり、教師の発問や指示、説明などはすべてセリフだと思って、そのまま書きましよう。

また、「～～を板書する」といった教師の行動についての記述はト書きだと思って書きましよう。

2) 「児童の活動」に書く子どもの反応は、次の3つの種類に分けられます。「授業進行のために、絶対出て来てほしい発言」、「出て来ては困る発言」、「出て来るだろうと思われる発言」

3) そこで、指導上の留意点には「絶対に出て来てほしい発言」が出て来ないときはどうするか、「出て来てほしくない発言」が出て来たときはどうするかといった手立てを書くこととなります。

4) 指導上の留意点にはその他にどんな資料を何のために、どこに掲示する、あるいはどういうタイミングで、どんなふう提示するのか（一度に全部見せるのか、だんだんに見せていく）なども書いておく方が、授業の時に困りません。

●課題について

学習指導要領にしたがって社会科の授業の課題を作ると「〇〇で働いている人たちはどんな工夫や努力をして仕事をしているのだろう。」「そうした工夫や努力の底にある願いや思いは何だろう」というものになります。しかし、これではあまりに直接過ぎて子どもたちの学習意欲を引き出せないと考えたのでしょう。多くの授業がこのように「〇〇の秘密をさぐる」というものになっています。

	<p>です。どうですか？」</p> <p>「なるほど。」</p> <p>「さて、これは海津市という所が水害に遭った回数を示すグラフです。私たちの市の△△町と比べてどうですか？」</p> <p>「なんで、こんなに水害が多いと思いますか？」</p> <p>「大きな川があるということですか？他に理由は考えられませんか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すごく多い。</li> <li>・3年に一度くらいは水害に遭っていた。</li> <li>・でも、〇年から水害の数が減っている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倍くらいありそう。</li> <li>・何で、こんなに水害が多いのですか？</li> <li>・海津の人たちは引越そうと考えないのですか？</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの市の△△町のそばには利根川が流れています。それに土地が低い。海津市も同じじゃないでしょうか。</li> </ul>	<p>☆（資料②）</p> <p>☆水害が起きやすい地域の一つに岐阜県海津市があることを理解させる。</p>
<p>課題把握 2分</p>	<p>「では、海津市では、なぜこんなに水害が多いのか、その秘密を調べてみましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>海津市は、なぜ水害が多いのだろう？その秘密を探ろう。</p> </div>	<p>○課題を把握する</p>	

追求解決（25分）	「地図帳で、海津市を探してください。」 「川がありますか？」 「では、その川の名前を教えてください。」	・見つけました。 ・あります。 ・木曾川 ・揖斐川 ・長良川	
	「たしかに川はあるけど、その川は水害を出すほど大きいのかな？」 「それに、海津市の方が、土地が高かったら、そんなに水害には合わないと思うけど」	・先生、今頃なんだけど、水はけが悪いついていうことも考えられませんか？	
	「ほう～、面白いね。水はけが悪いね。」 「では、話を戻して。どうしたら、みなさんの予想が正しいと証明できますか。」	・地図帳で、土地の高さを調べるといえるのはどうですか。 ・資料集や教科書に海津町のことが載っているかもしれないから調べてみたいと思います。	

### ●予想と追求解決について

ここでは、「予想」の段階をほぼ省いた指導になっています。その代わりに「追求解決」の初めの段階で、「海津市の近くには川があるから水害が多い」という予想にゆさぶりをかけています。そして、どうやったら、自分たちの予想が確かめられるかを子どもたちに考えさせ、それから「追求解決」に入るという展開にしています。

でも、子どもたちが出した地図帳とか資料集、教科書記述だけではまだ不十分だという所まで子どもたちを追い込みましょう。そして子どもたちにどんな資料が欲しいか、考えさせましょう。その資料は当然、教師の方で用意しておきましょう。子どもたちから要求されるまで、簡単に示してしまうのはやめましょう。

左の発言のように、ずれたタイミングで発言する子どももいます。単に排除しないで、上手に授業の流れに取り込みましょう。

子どもたちの追求力を育てるために、教材に応じて、この単元は教師がすべて資料を用意する、あの単元は、子どもたちに追求させるステップを設けると考えながら、授業を作るのが楽しい、と言えるようになったら、職業人としても幸せなことだと思いませんか。目指しましょう、授業のプロを！

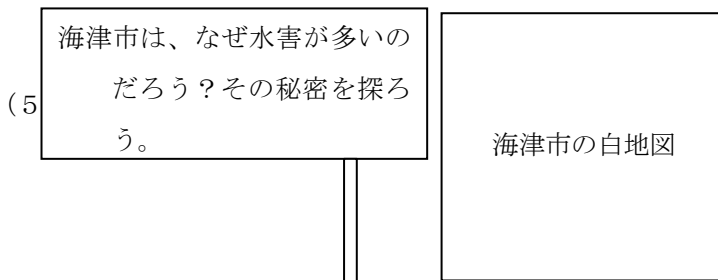
●板書について

- 1) 1時間1板書が基本です。だから、途中で消したりしないようにします。
- 2) それは、授業が終わった時に板書をみれば、その時間にどんな課題で何を学んだかがわかり、かつ途中で出た子どもたちの発言も(一部でよいから)わかる、そして最後に何を学んだかがわかるようなものが好ましいからです。

●資料について

社会科は小学校3年生から始まります。その3年生にいきなり棒グラフや折れ線グラフを使った資料を提示しないようにしましょう。算数で習っていないからです。5年生のこの段階ではもう習っていますから、こうした抽象的なグラフを使っています。中学年段階では、親しみやすい絵などを利用してグラフを作ります。

また、資料を作成したときには、面倒でも必ず出典を書くものです。出所の怪しい資料は、アカデミズムの世界でも教育の世界でも信用されません。子どもたちにも、資料の出所を気にする習慣を付けましょう。インターネット上に、怪しい情報がたくさんのかかっている時代ですから。



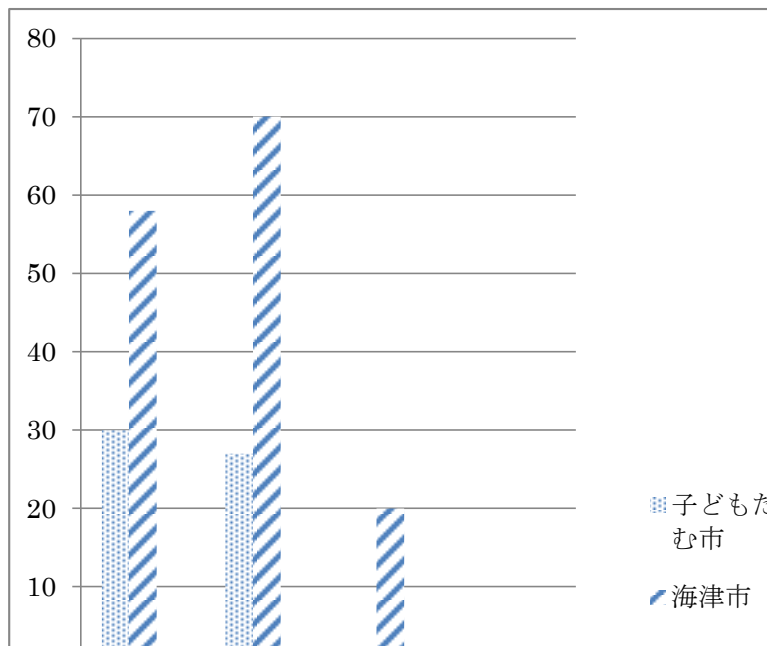
⊙

Ⓢ 海津市で水害が多いのは、川に囲まれ、土地が低いから。

(予想)

- ・雨がたくさんふる
- ・川とか海が近くにある
- ・水はけが悪い

(6) 資料



(出典：〇〇)

※ この学習指導案は、平成28年度卒業(社会専修)の黒羽雄大君が「教職実践演習」の為に作成したものを、一部作りなおしたものです。記して謝意を表します。